



静かそけいの鼓動北の大地へ大空へ



女子 優勝監督 手記

■ 中村 翔

藤枝順心高校監督

PK方式の末勝利しましたが、緊張など、様々な要素が入り混じった初戦で、新チーム始動時からやってきたことがひとつ発揮された試合になりました。

2回戦の東海大福岡戦は、1回戦を乗り越え緊張から解放された精神的な部分もあったかもしれませんが、1回戦でやりたかったことができた試合でした。ただ、新チーム始動後間もなく、まだ成熟度が低い段階ゆえの課題も見えました。自分が活躍したい気持ちが先走ってしまうシーンが見られたのです。ハーフタイムには、自分だけでなく味方も使う選択肢を冷静に判断できるように、と伝えました。結果、後半5ゴールを挙げましたが、この先の準決勝、決勝に活かしていくべき課題を得ました。

今、何をすべきか

準決勝の星槎国際湘南戦、前半は自分たちがやりたいサッカーをある程度表現できました。一方で北海道とはいえ、連日35℃の暑さの中での3戦目。ある程度の疲労は考慮すべき点でした。案の定、後半に入り足が止まりだし、戦い方を修正してきた相手に流れを渡してしまい逆転されてしまいます。そこで1回戦同様、選手たちに問いかけました。そしてチーム分析に基づきセットプレーに狙いを定め、メンバーを交代しポジションを変更。後半アディショナルタイムの同点ゴールは、右サイドにポジション変更した下古の突破で得たコーナーキックからのものでした。1回戦に続きPK方式となった準決勝。練習から決定率の高い5人を選び、万が一外したとしても、それは選んだスタッフ側の責任だから思い切って蹴るよにと送り出しました。結果、決勝へ進出することができました。

聖和学園との決勝では、「大会で一番のベストゲームをして帰ろう」と話しました。できないことも予想しつつ、それでも大会運営の方や観客の方に「今日のゲームが藤枝順心の試合の中で最も良かった」と思ってもらえるように。負けたくともそうであらう、という話をしました。そして3-0で勝利。自分だけではなく、スタッフも共有している思いが選手にも伝わり、取り組んでくれたことによって成し遂げた優勝と感じています。

女子サッカーへの願い

自分が監督になってからは初めての総体優勝。藤枝順心は「冬の女王」と呼ばれていますが、夏の総体でも優勝したい思いはありました。実際優勝して、もちろん嬉しかったのですが、自分たちスタッフとしては苦しかった、というのが本音です。ずっとハラハラする試合ばかりでした。

暑い中での連戦に関しては、トレーナーの細かい体調のチェック、食事面では管理栄養士のアドバイスも受けていました。選手のコンディションが例年より良かったのは、寮の関係者・後援会の皆さま・保護者会の皆さまなど、陰で支えてくださる方々の影響が大きかったです。

会場となった北海道・帯広の暑さはここ数年になかった程らしいのですが、運営の方々には大変お世話になりました。コロナ禍が明けた中での運営は難しさもあったかと思えます。その中で選手の健康を最優先に、試合に集中できるように動いてくださいました。試合後のメディア対応では日陰を作ってください、表彰式もベンチを置いて選手を座らせてくださいました。本当にありがとうございました。

状況に応じて判断や戦い方を変える藤枝順心のサッカーは、大事にしていきたいと考えています。選手の可能性を狭めることなく、この先プレーするところでも自分たちの良さが発揮できるように、そしてなでこジャパンがもう一度世界一に輝く要因となるように。女子サッカーの発展を志しながら、今後もサッカーを求めていきたいと思っています。



静かそけいの鼓動北の大地へ大空へ

女子 総評

■ 翠 茂樹

横浜翠陵高校

令和5年度「翔び立て若き翼」を愛称に、全国高等学校総合体育大会女子サッカー競技が7月26日～30日の日程で開催され、北海道帯広市で熱戦が繰り広げられました。大会前日の25日には、とちぎプラザに全国の地域予選を勝ち抜いた16チームが集い、4年ぶりに対面による開会式が催されました。北海道帯広市の気温は本州とあまり変わりませんが、天候に恵まれ、湿度が低く、時折心地よい風が吹くように涼しく、ピッチの天然芝も関東よりも深く感じました。

準決勝に残った4チームは、昨年度のベスト4と全て異なるチームであり、藤枝順心(東海①)、聖和学園(東北①)、星槎国際湘南(関東②)、福井工大福井(北信越)が進出しました。ベスト4に躍進したチームの共通の特長としては以下の3つが挙げられます。

- GKのポジショニングが良くシュートストップに長けている。
- 攻守にわたって数的優位に立つことができる。
- チーム全体で意図がある守備が統一されている。

例年に比べてミドルシュートが少なく感じたのは、今大会15試合中で同点によるPK方式の試合が6試合、2点差以内の試合が4試合と、70%近くが拮抗したゲームであったことから、その特徴が明確になっているように感じました。

前年度の全日本高等学校女子サッカー選手権大会を制した藤枝順心は、1回戦の大阪学芸(近畿①)戦、準決勝の星槎国際湘南戦では結果的にはPK方式で苦しみながら決勝戦に駒を進めましたが、どちらが勝ってもおかしくない接戦をものにし、チャンピオンとしての誇りを感じるチームでした。決勝戦に進出した聖和学園は、MF本田選手、FW米村選手を中心にDFラインから前線の攻撃までコンパクトフィールドを保ち、個人技とパスワークを駆使し、ボールを奪われてもすぐに奪い返し、ゴールを目指す好チームでした。藤枝順心と同様に、準決勝の福井工大福井戦では互いに持ち味を発揮したゲームとなりましたが、決め手に欠け、同じPK方式で苦しみながらも決勝戦に駒を進めました。

今大会の決勝戦では、藤枝順心が聖和学園に攻撃のリズムを作らせない攻守の切り替えの早さを見せました。攻撃では聖和学園の3バックの脇をうまく利用しながら相手選手のギャップにタイミングよく人が動き、ボールを受けることを繰り返し、相手を翻弄する場面を多く作り、優勝しました。敗れましたが、聖和学園も厳しいアプローチを受けながらも時折見せる個人技とパスワークを活かした攻撃を仕掛け、意地を見せてくれました。両チームがこの暑い夏を越えて、冬の選手権にてどのような戦いぶりを見せてくれるかが本当に楽しみな一戦となりました。

今回の総体では、以前のような個の打開力に頼りがちで、連係・連動して関わる選手が少なかった傾向から、ポジションを志向し、安定したビルドアップから攻撃を仕掛けるチームが多く見られました。また、守備ブロックを打開するゴール前のアイデア、クロスやワンタッチシュートの精度が高まったと思います。

一方、守備に関しては原則である「前へ蹴らせない、遅らせる」を、どのチームもボールを失った瞬間にファーストDFの選手だけでなく、全員の切り替えを早くして徹底していました。個またはチームとしてボールを奪う意識が高く、アプローチのスピードや球際のコンタクトスキルなど、インテンシティが向上しているように感じました。また、ゴールを目指してドリブル突破を仕掛ける相手に対して、飛び込まずにシュートを撃たせない、または最後まで身体を寄せてブロックする守備が徹底されており、GKとの連携もできていました。

ただし、今後の高校女子サッカーのためにも厳しい見方をすると、以下の2点は改善すべきポイントだと私は断言します。●ヘディング。世界と戦ううえで、どのタイミングにおいても、どの体勢においてもジャンプヘッドのテクニックを身につける必要性を感じました。

●グループの守備。こちらは昨年度の四国総体でも出た同じ課題とも言えます。前向きにボールを奪いに行く意識が高まる一方、攻撃側が背後のスペースを狙う動き出しに対して、対応が遅れる場面も多々見受けられました。人につられてボールウォッチャーになりスペース



を空けてしまい、バランスを崩してしまつたところを狙われることで決定機を与えてしまうこともありました。

私見ではありますが、女子W杯等と似たような課題とも照らし合わせた客観的な視点を持ちつつ、課題解決に向けた議論を指導者同士が繰り返し、互いに切磋琢磨しながら日本の高校女子サッカーのレベルアップに繋がるために何が必要かを考え続けることが求められているように思います。自分のチームはもちろん大切ではありますが、「自分たち」のチームも大切だと捉え、次世代の指導者や選手たちにも目を向けることで日本の女子サッカーのさらなるレベルアップに繋がることを私は期待します。

全国から派遣された技術委員の方々におかれましては、連日暑い中でのマッチレポートの作成、優秀選手の選考など、ご協力を賜りましてありがとうございます。大会前より運営に携わりながら、多大なるご協力をいただいた旭川南高校の小野先生には、会場への送迎、データ処理、予定作成など、多くの面で本当にお世話になりました。感謝申し上げます。

また、北海道帯広大会の運営にあられた加藤先生、川人先生を中心とした多くの関係者の皆さま、朝早くから会場準備、運営に協力してくれた高校生補助役員の皆さまには、大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。

末筆ながら、2010年の高体連サッカー専門部女子部発足以来、女子の技術委員長という役を私なりに担って参りました。就任当初より様々な面でお世話になりましたJFA女子チーフだった大野氏、前全国高体連技術委員長だった栗田先生、私を指名してくださった初代高体連女子委員長の日野先生にはこの場をお借りして感謝申し上げます。また、このような私を支えてくださった高体連女子技術委員の先生方、改めてありがとうございました。皆さまの無償のご尽力、本当に助かりました。